

りんどうの品種

品種名 F1 晩生 I (仮称)

野菜花き部

1. 来歴

昭和40年に矢巾町岩清水附近に自生していた9月中下旬咲きのエゾリンドウを採集し、園芸試験場で栽培した。

この中より草姿の優れているものを約20個体程選んで自殖し、その中より、特に花色の濃いものを選抜し、更に自殖を重ねた結果、ほぼ揃った形質が得られてきたのでその後は、系統間ごとに集団で選抜を重ねた。

55年にこれらを組合せ交配し、56年以降栽培調査した結果目的とする形質がほぼ得られ均一性があることが確認された。

2. 特性概要

1) 繁殖法：種子（一代雑種）

2) 特性

開花期は平坦地（北上附近）の露地で9月15日頃で従来の「矢中系」より4～5日早い。草丈は畑地で120cm前後で、茎立数は実生3年目で6本前後、茎はやや太く強い。

茎の色は、緑色で側枝の発生はない。葉の大きさは、大きい方であるが、従来の「矢中系」よりは若干小さい。

花色は濃い青紫色で花段数は5～6段である。開花順序は上下がほとんど同時に咲く。（表1）

3. 奨励品種に採用したい理由

現在本県で栽培されている晩生系（9月中～下旬咲）品種は矢中町産の選抜系「矢中系」が使用されているが、この品種は固定度が低いために、品質がやや不揃いの上に開花期がやや遅いため、県北部や標高の高い地帯等では、平年需要の多い彼岸の時期に最盛期がまにあわないことが多い。

これらの欠点を改善しようとして、育種を続けてきた結果目的とする形質がほぼ得られる新品種が育成されたので奨励したい。

4. 適応地域 県下全域

5. 栽培上の留意点

- 1) この品種は一代雑種のため、採り返しの種子は品質が著しく低下するので使用しない。
- 2) この品種の適作型は晩生のため、露地栽培がよい。
- 3) 栽培法は、従来の晩生種「矢中系」に準ずる。
- 4) 参考文献 昭和58年度 岩手県園試花き試験成績書

表1 特性の概要

(58年)

項目 系統名	開花期 (月・半旬)	開花順序 (上全下)	花色 (カラー・ 1~7色)	花弁の斑点 の程度 (大中小無)	花段数 (実数) 段	花数の多い 位置 (上全下)	草丈 (実数) cm	茎の太さ (大・中・細) 3 2 1
F1 晩生1	9.4 ○	全 ○	6 ○	小 ○	5~6 ○	上 ○	123 ○	3 ○
対照(矢中)	9.5 X	下 △	6 △	小 △	5~6 △	上 △	110 △	3 △

茎の強さ (強中弱) 3 2 1	茎の色 (緑・中・黒) 4 3 2 1	節間長 (長中短) 3 2 1	側枝数 (多中少) 3 2 1 0	茎立数 (多中少) 3 2 1	葉の形 (立中丸) 3 2 1	葉の大きさ		葉色 (濃中淡) 3 2 1	総合評価 ○ △ ×
						ア (長中短) 3 2 1	コ (広中狭) 3 2 1		
3 ○	4 △	2 ○	0 ○	2 ○	2 ○	3 ○	3 △	3 ○	○
3 ○	4 ×	2 ○	1 △	2 ○	2 ○	3 ×	3 ×	2 △	△

注1. 項目中の○△×の表示は揃いの程度を示す。

○-----揃っている。 △-----やや不揃い X-----不揃い

2. 開花期：全体の50%程度開花した時期

3. 茎の太さ：草丈の1/2の位置

4. 茎の色：上部の位置

5. 節間長：上部(2/3附近)の位置

6. 葉の大きさ：上部(2/3附近)の葉

7. 花 色：カラーチャート(1~7)は淡~濃を示す。

8. 総合評価：○ 良 △ やや良 × 不良

表2 「F₁晩生」の実生3年株(成令株)の主要な特性

草丈 _(cm)	茎立数 _(本)	茎の直径 _(mm)	節数 _(節)	節間長 _{(茎中央部)cm}	葉長
125.7	6.0	5.7	29	3.9	10.6

葉幅 _(cm)	花段数 _(段)	茎当り総花数 _(コ)	花の大きさ _(cm)		平均開花日 (月:日)
			長さ	直径	
3.2	6.3	30.4	5.28	1.33	9:20